

クロマツ探検隊 1

5月18日（水）に第3回「みどりの保育園」として、酒田市宮海の西荒瀬保育園に隣接する新林国有林1131林班内でクロマツ探検隊（第1回目）を実施しました。今回の参加者は、年長組園児25名、保育園先生4名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター3名、庄内森林管理署1名、総勢33名です。当日は、園児達の心がけが良いせいもあり、晴天の爽やかな天気恵まれました。

最初に、出陣式では、隊長には保育園の先生、隊長補佐には朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター及び庄内森林管理署職員、隊員には園児の皆さんが任命され、出陣前に探検隊ルールと庄内砂丘クロマツ林の歴史について学びました。

その後、隊長指示のもと二班に分かれて探検にいざ出陣です。まず、これから向かうクロマツ林を隣接している市道から眺めます。ここでは、隊員たちが地域の人から借りている農地に、今年ジャガイモとサツマイモを植えて育てることを教えてくれました。市道をさらに進みクロマツ林の中に入ると、ツルニ千ニ千ソウの紫の綺麗な花が出迎えてくれました。ここで庄司隊長補佐は、クロマツ林のいたるところにみられるツタウルシを手にとり、「触れるとかぶれる」とその怖さを隊員たちに教えます。さらに林の中を進んでいくとカキドウシ、シャガ、ムラサキケマン、クルマバソウ、ウラシマソウ、アマドコロなどの春の野草が次々と現れ、隊員からは、「綺麗な花」「可愛い花」との声が聞かれ、特に、女子隊員はその光景に感動していました。

しばらくクロマツ林内を進んでいくと、鳥の鳴き声とともに飛翔している大きな鳥を発見！もっとよく見たいという隊員のリクエストに応え、双眼鏡による観察を行う事にしました。隊長補佐から双眼鏡の使い方の指導を受け、双眼鏡をのぞく隊員からは、大きく見える鳥の行動に歓声があがります。当センターで設置した望遠鏡には、順番待ちがでる盛況ぶりです。隊員たちは、ここでは隊長補佐から「サギの森」に住んでいるアオサギ、ダイサギ等の説明を受け、西荒瀬地区が野鳥にとって住みよい場所であること、生物多様性に富んだ自然があること、その中であってクロマツ林の存在が大きく影響していることを学びました。

次に、クロマツ林内で宝物探しを行いました。各隊員が自分だけの宝物として野草の花びらや草の芽などを探して持ち帰ります。保育園までの帰り道では、市道に落ちているゴミ拾いに挑戦をし、その途中では、地域の農地や住宅地にクロマツ林がなくてはならないこと、それらとクロマツ林の関わりについても学びました。

そして、今回の探検隊最後のイベントである万華鏡遊びにチャレンジしました。先ほど、クロマツ林内から探してきた「小さな宝物」を万華鏡に入れてその中を覗き、隊員たちは、「僕の万華鏡綺麗だよ」、「私の万華鏡も見てちょうだい」などと万華鏡を隊員同士交換し、鏡が割り出す不思議な模様にしぼし魅入っていました。

最後に、総隊長の園長先生から、楽しかったクロマツ探検隊の話聞き、隊員からは、「楽しかったよ！」「今度はいつあるの？」など担当者として嬉しい声も聞かれつつ、クロマツ探検隊1を終了しました。



朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター